

「スマートシティ実現で増幅するエリアの引力」事業の概要(岡崎市)

1

■ 事業のセールスポイント

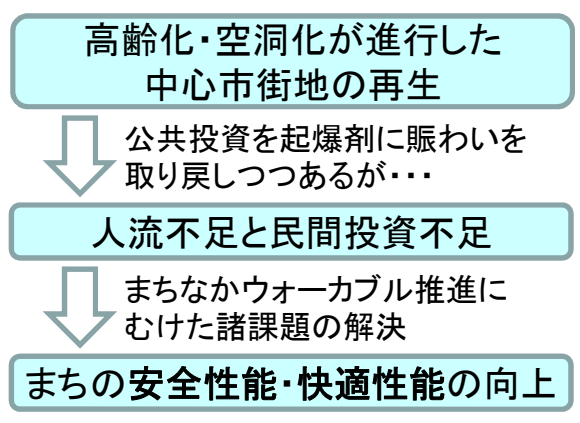
- 「スマートシティ実現」で加速する「まちなかウォークアブル推進」と「都市再生」
- 地方再生モデル都市として行う公共投資(ソフト・ハード)に連動したスマート技術の着実な進化と実装
- 実装を進めるスマート技術から得られるデータについて、より具体的な利活用手法を構築

■ 対象区域の概要

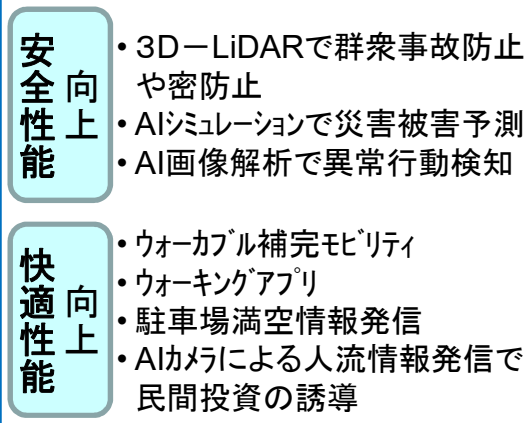
- 名称: 乙川リバーフロントエリア
- 面積: 157ha ○ 人口: 7,800人



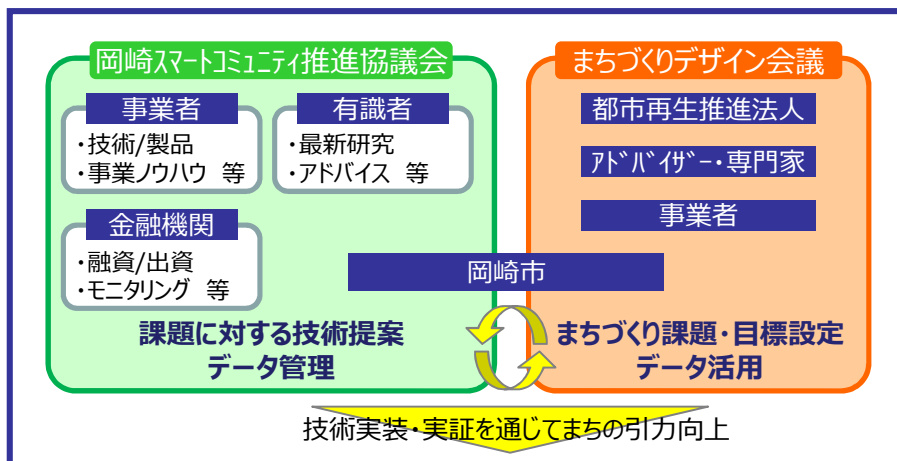
■ 都市の課題



■ 解決方法



■ 運営体制

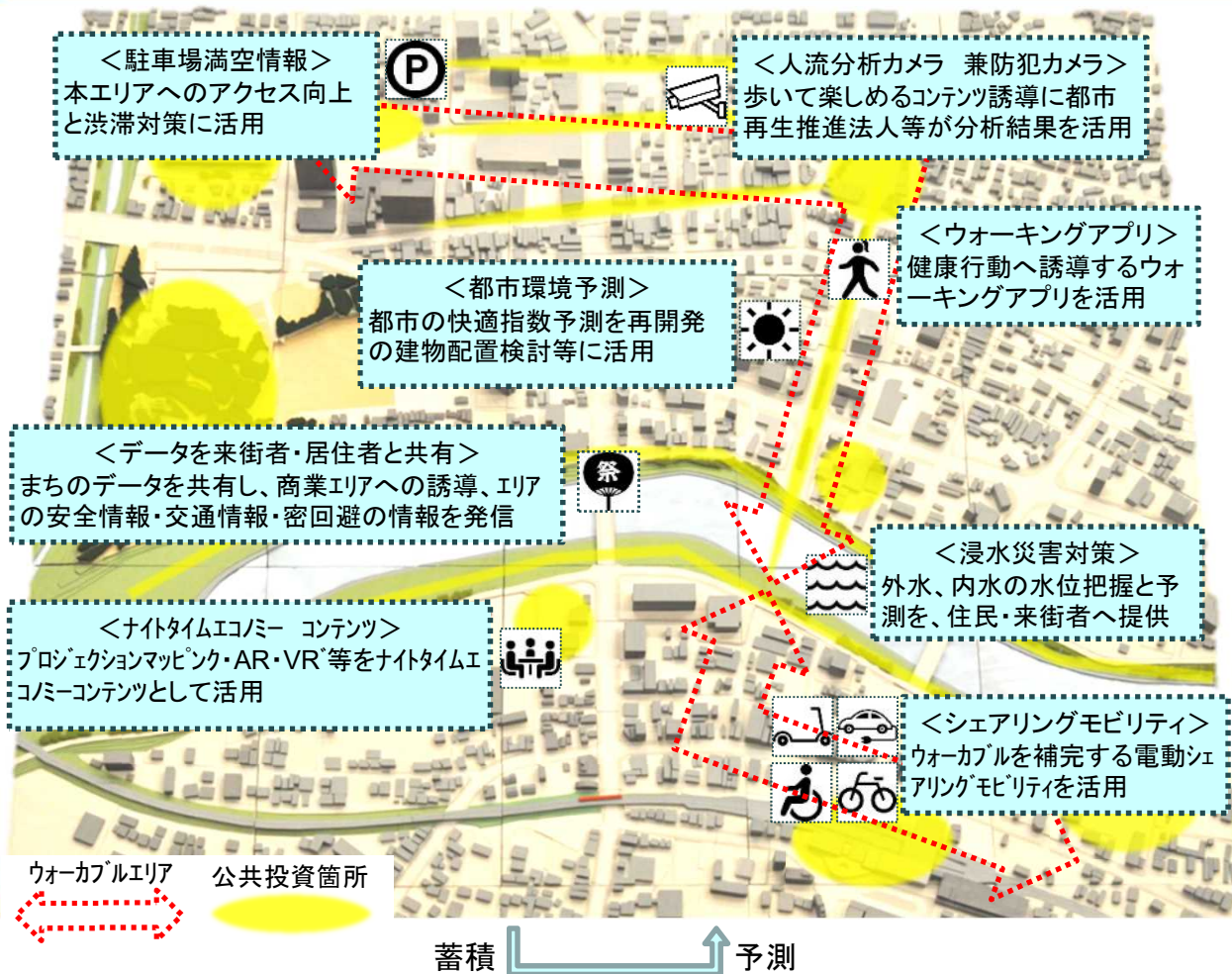


■ KPI(目標)

項目	KPI
エリア内の年間犯罪発生件数 (該当小学校区2019年度296件)	10%減少
民間再開発検討件数	累計3件
遊休不動産活用件数	累計30件
人流データとエリアマーケティングソフトの 連携を見据えた実験の増加	2件

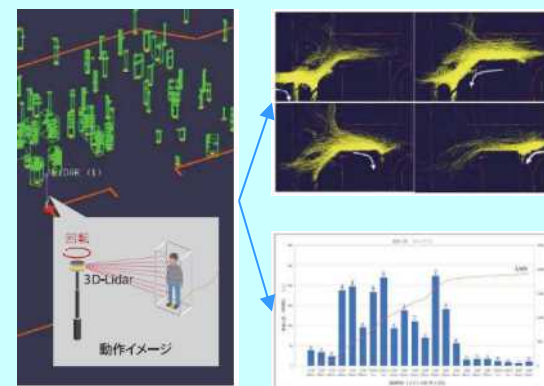
達成年度はいずれも2025年

- センシング技術等で人流をはじめとする各種データを取得・利活用し、まちの安全性能・快適性能を高めて、まちなかウォーカブル推進により都市再生を加速させる。そのために、人流分析カメラ、3D-LiDAR、GPS(個人デバイス・シェアサイクル)、水位計、ウェアラブルIoTなどの技術を、2025年までにエリア内各所で実証・実装する。
- 人流情報がさらなる人流を呼び、またこれにより民間の投資がさらなる投資を呼び込む持続可能な好循環を志向

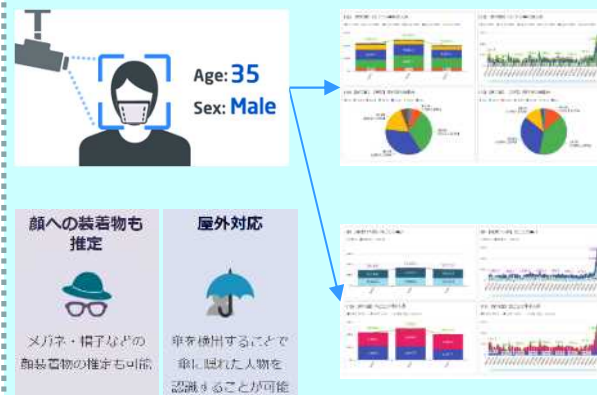


データサイエンスオートメーション型AIによる複合的なデータ分析

活用技術例：人流動線把握技術
Data取得機器：3D-LiDAR



活用技術例：屋外通行人属性把握技術
Data取得機器：人流分析カメラ

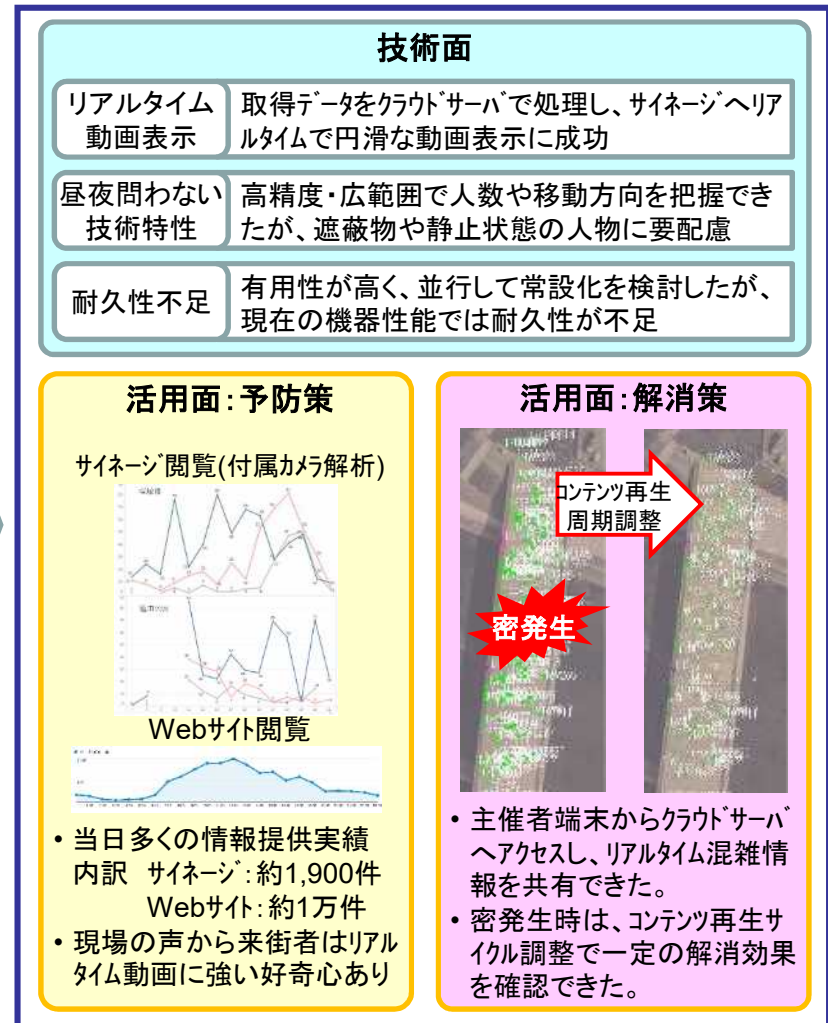


都市の安全性能向上のため、3次元赤外線センサーにより人流データを取得、**リアルタイム**で来街者やイベント主催者に共有し、都市の密度コントロールの実証実験を行った。事前の有識者アドバイスを参考に、「**密の予防策**」と密が発生した場合の「**密の解消策**」を設定して効果を検証した。予防策(情報発信)では、リアルタイム情報への来街者興味の高さと相まって多くの閲覧実績を得た。解消策では、コンテンツ再生周期の調整で密の解消に一定の効果を確認できた。

■ 実証実験の内容



■ 実証実験で得られた成果・知見



まちなかウォーカブル推進→都市性能向上にむけて多くの技術を実装しているが、これらの持続可能性を高めていくことが課題であると改めて認識し、多面的活用や高付加価値化のさらなる推進に取り組む。
また、当初より志している、人流情報がさらなる人流を呼び、またこれにより民間の投資がさらなる投資を呼び込む好循環を構築するため、人流データの情報発信・流通に取り組む。

■ 実証実験で得られた課題

- 低密度化の実証実験は高い有用性を確認したが横展開を見据えた場合、単体導入は高コスト
- 実証実験で得られた課題と、実行計画で位置づけた課題を解決し、スマートシティの持続可能性を高める。

実証実験で得られた課題の解決 (技術・データの多面的活用)

- ✓ 実装済み技術やその取得データと親和性のある技術を追加導入し、地方都市の共通課題である都市の**高密度化**を図る。
- ✓ 追加導入する技術は、有償サービスとして継続展開していけるものを選定
- ✓ 実装済み技術から得られるデータと組み合わせ、都市の快適性能や安全性能のさらなる向上に資する分析へ活用

実行計画に位置づけた課題の解決 (データの高付加価値化)

- ✓ 実装済み技術から取得されるデータの高付加価値化を促進する。
- ✓ **スマートシティ実現**に向けて実行計等で整理した都市経営コスト縮減などの課題解決を図る各**戦術**を実行
- ✓ スマートシティで実現する将来像で掲げた、まちの引力可視化による**民間投資誘導**の循環を構築するための各**戦略**に着手

■ 今後の取組：スケジュール

技術開発・実装スケジュール

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
アプリ活用サイクルシェア	実装						
エネナ地域電力会社	設立	実装					
ウォーキングアプリ	開発	実装					
駐車場満空情報	開発	実装					
通行人属性推定(人流カマ)	実装						
人流動線把握(3D-LiDAR)	実装	リアルタイム混雑データ共有実装					
災害被害予測		システム開発		実装			
ウェアラブルIoT			実証	実装			
ウォーカブル補完モビリティ			開発・実証		実装		
異常行動検知			開発・実証		実装		
人流データ統合分析			開発	各人流統合活用 実装			

2021年度の主な事業

都市の高密度化

ウェアラブルIoTデバイスを活用するウォーキングプログラム、バイタルデータツーリズムを開発し、既存の他データと合わせ多面的活用



例) アウトドア企業研修 × ウォーキング × バイタルデータ
YouTuber聖地巡礼

スマートシティ実現戦術

- シェアサイクル事業は、過去Webアンケート活用で収入倍増させたが、各データ活用で再配置コスト縮減を行う。
- エリアを横断する国道1号線が人流バリアと判明。バリアを超える人流創出に向けたデータ分析を行う。
- 保有データのオープンデータ化
(国交省人流データ事業採択)

民間投資誘導戦略

戦略用ダッシュボード構築とデータ活用ストリートプランディング手法を地域イノベーションで構築し、将来像の実現にむけた戦略に着手

インサイトデータ × フィンテックデータ
(ふるさと財団採択)